



2020年を見据えたマンダムのお役立ちとは何か

2020年まであと10年。そう遠くない未来の社会はどうなっているのか。グローバル化の進展とともに、マンダムを取り巻く状況はどう変化し、ステークホルダーの皆様からのご期待やご要望にどう応えていけばいいのか。2020年を見据えたとき、マンダムとして今の課題はどこにあり、どのような「お役立ち」が必要かを社員で話し合いました。

■ これからの「マンダムのお役立ち」を議論

マンダムでは、2007年に改定した企業理念や方針、指針に沿った「お役立ち」考働について、社員同士で意見交換し情報を共有するため、2008年5月から社員ダイアログを実施しています。2回目となる今回の社員ダイアログは内容をもう一步先に進め、2020年にマンダムとしてどうなりたいのか、これから何をすればいいのかについて議論を行いました。

2008年度と重複しない6部門から社員各1名と環境推進室の4名が参加し、2010年3月と4月の2回、合計4時間にわたってダイアログを実施。1回目は、2020年の社会や経済、企業や人の変化について専門家のレクチャーを受

け、参加者で意見交換を行ったあと、マンダムがこれからも続けるべき良い点、今後改善が必要な点の2点について議論を行いました。

2回目は、参加者がそれぞれの立場で現在どのようなお役立ちをしているのかを発表し情報を共有。続いて、10年後の未来、世の中はどうなっているのか、そのときマンダムはどうなっていたいのか議論を深めたあと、これらに向けて今何をすればいいのかを話し合いました。ここでは、各参加者の代表的な意見を紹介するとともに、参加者内でまとめた「2020年を見据えたマンダムのお役立ち」について、ステークホルダー別に整理し掲載します。



品質保証室 主事
中村 卓二

確かな品質のものを作り続けるため、企画から設計、開発、生産、物流にいたる各プロセスの仕組みを継続的に見直すとともに、グローバルな品質保証体制にも対応していきたい。



お客さま相談室 課長
米田 実

お客様にとって「品質」は商品の価値の半分しか占めず、残り半分はマンダムに対する信用が占めています。そうしたお客様の気持ちを裏切らないような製品開発や品質管理が必要だと考えます。



広報IR室 主任
菊池 賢治

企業価値の向上に向け国内外を問わず株主や投資家の皆様と、それぞれにコミュニケーションを深めていくことにより、長期的な関係を築いていきたい。



海外事業部 課長
本郷 良和

かつてないスピードで市場のグローバル化が進んでいます。海外での事業活動を通じて、取組先への協力や、若者文化活動の支援など、海外のステークホルダーとの絆を深めていければ。



人事部 主幹
西浦 けい子

グローバル化に対応できる自律した社員を育てることが重要で、そのためにも、働き甲斐と働きやすさを両軸で進めていければと思います。

参加者で考えた2020年を見据えたマンダムのお役立ち

生活者

- 魅力ある商品を生み出す仕組みづくり
- 健康やアンチエイジングなど課題に合わせた商品開発
- 環境に負荷をかけない商品開発
- 多くのアジアの人に良いものをより安く提供
- マンダムエコポイント制度の創設など魅力ある販売促進
- 高齢者向けのチャンネル開発

社員

- グローバルビジネスに対応できる人財育成
- マンダムの良きDNAの継承
- 部門を越えたコミュニケーションの場づくり
- 女性社員の活躍を支援
- 社員の自律を促進
- 働き甲斐と働きやすさの両軸を推進

取組先

- 業界のパートナーシップ形成に向けた情報収集
- グローバルな品質保証体制の推進
- 海外の代理店における次世代経営者教育への協力

株主・投資家

- 投資家に対するフェアな情報提供
- 情報提供手段の多様化の推進
- 株主・投資家の意見に対するフィードバックによる企業価値向上

地域社会

- 地域に合わせた多様な貢献
- グローバルな次世代育成の推進
- 若者の文化づくりに貢献

その他

- CSRビジョンづくり

社員ダイアログを終えて

今回の社員ダイアログでは、バックカastingという未来から現在を考える手法を用い、マンダムがこれから取り組んでいくべき課題を明確にするとともに、解決するためにはどのような「お役立ち」が考えられるのかアイデアを出し合い共有化しました。

参加した社員からは「他部門の社員と交流を深める有意義な機会だった」「今日ここで出た意見を自部門に持ち帰って情報共有したい」といった意見をもらっており、各部門での目標設定と行動につながることを期待しています。



事務局：環境推進室 室長
木村 三千雄



総務部 課長
牧 博英

まずはステークホルダーの意見・要望に耳を傾けることが大事だと思います。その上でやるべきことを着実にやっていくという姿勢で取り組みます。



環境推進室
金子 伸江

会社は社員あつての会社です。部門間での情報共有やコミュニケーションの促進など、社員がいそいそと充実して働けるような職場づくりが大切だと思います。



環境推進室 主幹
新村 博

今後は環境だけではなく、健康、福祉、高齢化などがキーワードになってくると思います。それぞれの課題に合わせた商品開発、販売戦略が必要ではないでしょうか。



環境推進室 主事
川西 史朗

サステナブルな社会を実現するためには、水資源の重要性や生物多様性に配慮したより環境負荷の小さい商品開発が急がれます。

